

◆ 授業改善

学びのトランスフォーメーション推進事業 【新しいかたちの学びの授業力向上推進事業】

事業趣旨

教科指導やICTの活用の特化型である「新しいかたちの学び授業力向上推進教員」が2～3名のグループとなり、チーム・ティーチングによる授業改善や校内研修での資料提供、教員との協議等を実施するほか、配置校以外の学校（連携校）へも巡回することで地域全体の学力の向上を図る。

事業内容

- 推進教員がグループで配置校を巡回し、教員の授業力向上及び学校全体の授業改善を推進
- 推進教員をグループ又は単独で連携校に派遣し、連携校における授業改善を推進

【推進教員の主な役割】

- ・ T・Tによる授業改善を推進
- ・ 少人数指導による児童生徒の資質・能力の育成
- ・ 児童生徒の学力や生活習慣等の実態把握及び分析
- ・ 校内研修における提案や資料提供
- ・ 授業動画等の実践資料を作成し、全道へ普及
- ・ 域内の小学校の専科指導教員等との連携

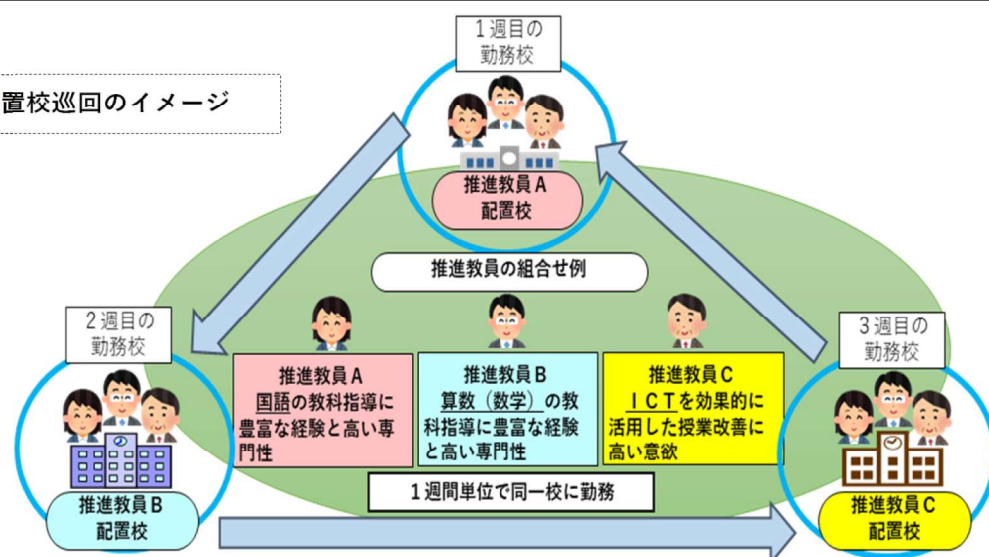
【配置校等管理職の主な役割】

- ・ 組織的な授業改善の方針及び方策を明確化
- ・ 円滑な事業実施に向けた校内体制の整備
- ・ 1人1台端末を活用して以下の取組を推進
 - ① ICTを活用した主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善
 - ② MEXCBT及び学習eポータル活用
 - ③ MEXCBT版チャレンジテストの実施
 - ④ 端末を持ち帰って行う家庭学習等

【市町村教育委員会の主な役割】

- ・ 推進グループが相互に連携・協力できる実施体制を整備
- ・ 2か月に1回程度、配置校や連携校による定例報告会を開催

配置校巡回のイメージ



■ 成果・課題

【成果】配置校及び連携校の令和5年度（2023年度）と令和6年度（2024年度）の平均正答率を比較すると中学校数学では2.7P上昇し、小学校算数では1.2P下落しているものの、全道の下落Pよりも下落幅を抑えている。

【課題】実践事例の普及啓発などの取組が不十分であり、授業改善の取組の全道展開に課題。

◇ 推進グループ配置校・連携校における平均正答率

校種・教科		R6	R5
小学校	国語	97.3%	97.0%
	算数	91.9%	93.1%
中学校	数学	94.4%	91.7%